

【研究費区分】：研究センター支援

【研究代表者所属】：人文科学研究科

【研究代表者氏名】：阿部 彩

【研究代表者氏名フリガナ】：アベ アヤ

【研究代表者職】：教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

- ・東京都立大学
丹野清人（社会学）、堀江孝司、室田信一、安藤藍、小田川華子（社会福祉学）、長沼葉月（ソーシャルワーク学）、酒井厚（児童心理学）、杉田真衣、松下丈宏（教育学）
- ・他大学
大石亜希子（千葉大学 教授）、藤原武男（東京医科歯科大学 教授）、村山伸子（新潟県立大学 教授）、末富芳（日本大学 教授）、山田壮志郎（日本福祉大学 准教授）、加藤承彦（国立成育医療研究センター 室長）、可知悠子（北里大学医学部 講師）、内藤朋絵（成蹊大学経済学部 講師）、周燕飛（日本女子大学 教授）
- ・東京都立大学 子ども・若者貧困研究センター
川口遼（特任研究員）、山本直子（特任研究員）梶原豪人（RA 当学博士後期課程）

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

Peter Saunders University of New South Wales, Professor
Scott W. Allard University of Washington, Professor
Jennifer Romich University of Washington, Associate Professor
Inhoe Ku Seoul National University, Professor
Julia Wang The University of Hong Kong, Assistant Professor,
Abigail Davis Loughborough University, Research Fellow,

【研究センター名】：

子ども・若者貧困研究センター

【研究課題名】：子どもの貧困の地域性：大規模マイクロデータを用いた国内外比較分析

【研究実績の概要】

本研究の目的は、日本における子どもの貧困の地域的分布および地域ごとのおよび特徴を明らかにし、各地域の特性に基づいた子どもの貧困対策を提言することである。

初年度となる2020年度は、高知県、山口県、東京都中野区、東京都狛江市が実施した「子どもの生活実態調査」のデータ統合を行った。これにより、「子どもの貧困ナショナル・データベース」の規模を拡大することができた。データ統合は当初計画していた第一期（東京都墨田区・豊島区・調布市・日野市、広島全県、長野全県、高知全県）と第二期（八王子市、大田区、世田谷区、狛江市）に加えて山口県についても統合作業が完了しており、データベース構築作業は順調に進んでいる。

構築した子どもの貧困ナショナル・データベースのうち、東京都内の8自治体の調査データから市部（郊外）、23区西部、23区東部の3つの地域ごとの生活困難度や親の就労時間の違いについて分析を行うなど、本データベースを利用した子どもの貧困の地域間格差に関する分析にも着手している。地域間格差の日米比較共同研究を行っている国際研究チームとは、オンラインミーティングを定期的実施（毎月1回程度）し、進捗状況に関するコミュニケーションを密に図っている。当初計画していた国際シンポジウムについては、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によって実施することが不可能な状況が続いたものの、2020年9月にはオンラインで国際分析チームとの研究報告会を開催し、分析内容に関する具体的な議論の機会を設けることができた。

また、センター内では活発に研究活動が行われており、2020年度は8本のワーキング・ペーパーを執筆している。これらは学術誌への投稿、学会での報告などが行われている。

こうした研究成果を社会へ還元するための方策として、当センターでは、毎月定例学術研究会を開催している。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催できない時期が続いたが、2020年11月よりオンライン開催として再開し、11月、12月、1月、2月、4月、5月の計6回開催することができている。

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月）】

（1）招待講演（国内会議 1 件）

- ・阿部彩「経済的ストレスと子ども・保護者のウェル・ビーイング」第36回日本ストレス学会・学術総会、2020/10/24、北里大学。

（2）口頭発表（国内会議 2 件、国際会議 1 件）

- ・近藤天・阿部彩・梶原豪人・小山幸・栗原和樹・瀧澤宏直・湯承晨・張秀賢（2020）「日本の高校生のフード・インセキュリティ～貧困との関連に着目して～」社会政策学会第140回大会（2020年春季）、東京都立大学、自由論題、2020年5月、オンライン。
- ・山本直子「外国につながる子どもの貧困」移民政策学会冬季大会、2020年12月、オンライン。
- ・Abe, Aya (2020) 'Non-traditional family types and poverty in "Familial Welfare States" of Asia' 2020 Annual Meeting of the ISA RC19 (International Sociological Association Research Committee 19), National Taiwan University 2020年12月、オンライン。

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月）】

（1）査読付き（ 2 件）

●国内誌（ 1 件）

- ・阿部彩（2021）「祖父母世代の貧困と孫のBMIと抑うつとの関係：東京都「子どもの生活実態調査」の分析」『公衆衛生学会誌』早期公開 <https://doi.org/10.11236/jph.20-074>

●国際誌（ 1 件）

- ・Yuko Kachi, Aya Abe, Hisashi Eguchi, Akiomi Inoue, and Akizumi Tsutsumi. "Mothers' Nonstandard Work Schedules and Adolescent Obesity: A Population-Based Cross-Sectional Study in the Tokyo Metropolitan Area." BMC public health, 2021 (in press) 掲載決定2021/1/14

（2）査読なし（ 9 件）[投稿中含む]

- ・阿部彩・松村智史（2020年12月）「子どもの貧困対策における学習支援事業：利用者の特性の分析」『季刊社会保障研究』第5巻第3号, p.287-300.
- ・梶原豪人・栗原和樹・小山幸・近藤天・瀧澤宏直・湯承晨・張秀賢・阿部彩（2021年3月）「日本の高校生のフード・インセキュリティの要因分析～貧困との関連に着目して～」東京都立大学子ども・

若者貧困研究センター Working Paper Series No.18

- ・山本直子（2021年3月）「外国につながる子どもの貧困」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper Series No.17.
- ・梶原豪人（2020年11月）「いじめ被害の要因としての貧困ー「仲間に溶け込む」ために必要な所有物の欠如に着目して」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper Series No.16.
- ・梶原豪人（2020年11月）「貧困が不登校に及ぼす影響の実証研究ー不登校生成モデルを分析枠組みにして」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper Series No.15.
- ・川口遼（2020年7月）「学校中退とその後の進路」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper Series No.13.
- ・梶原豪人（2020年7月）「不登校経験者の高校進学とその後の不登校、中退」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper Series No.12.
- ・湯承晨・近藤天之・小山幸・栗原和樹・瀧澤宏直・張秀賢・梶原豪人・阿部彩（2020年6月）「日本における子どものフード・インセキュリティ指標の構築」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper Series No.11.
- ・阿部彩（2020年4月）「子どものうつと貧困：DSRS-Cを用いて」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper No.10.

(3) その他 (2 件)

- ・阿部彩（2020）「財源規模は小さい生活保護ー貧困高齢者の議論が不可欠」週刊エコノミスト 2020/7/21 版, p.40.
- ・阿部彩（2020）「生活保護の「本質」：ベーシックインカムにはない「ニーズ」に応える制度設計」週刊エコノミスト 2020/8/25 版, p.74-75.

(※Q1 ランク学術誌への投稿及び EurekaAlert!への投稿等には「・」を「*」とすること。)

【外部資金への応募状況】

- ・2021年度 学術変革 (A) (応募済)
- ・2021年度 挑戦的研究 (萌芽) (応募済)

【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・【採択新規】荒川区産業活性化研究補助金事業 研究課題「荒川区における地域産業活用と子どもの貧困対策の融合研究事業」(2020年6月30日～2021年3月31日)

【受賞等】

- ・なし

【その他社会貢献】

定例学術研究会の開催

- ・子どもの貧困研究のフロンティア定例学術研究会の開催
(2020年11月、12月、1月、2月、2021年4月、5月 計6回)

【公的審議会・委員会等の公的貢献, 生涯学習支援・普及啓発, 国際貢献・国際交流等】

(1) 国会参考人・ヒアリング

*内閣府「選択する未来2.0」(有識者ヒアリング)(2021/3/24)(阿部彩)

(2) 委託事業

*荒川区 地域産業活性化研究補助金「荒川区における地域産業活用と子どもの貧困対策」

(3) 各種委員等

*厚生労働省 社会保障審議会生活保護基準部会 委員 (阿部彩)

*足立区 子どもの貧困対策検討会議 委員 (阿部彩)

*大田区 おおた子どもの生活応援プラン推進会議 委員長 (阿部彩)

*世田谷区 子どもの貧困対策アドバイザー (阿部彩)

(4) 政策提言等

*東京都大田区

*沖縄県

*東京都世田谷区

(※自治体等への政策提言や知見の提供には「・」を「*」とすること。)

【研究成果による特許等の産業財産権の出願・取得状況】

・なし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名,所属,金額(円))

期間	研究費の種類	研究課題名	代表者/分担者	総研究費(千円)
2017-2021	基盤(B)	「「貧困学」のフロンティアを構築する研究」	代表者	12,500
2018-2021	JST RISTEX 提案公募型	「子どもの貧困対策のための自治体調査オープンデータ化手法の研究」	代表者	15,950
2019-2021	挑戦的研究(萌芽)	「貧困とジェンダーの視点に基づく高校生アルバイト就労の実態解明と支援策の検討」	分担者 (研究代表: 大石亜希子、千葉大学)	1,000
2019-2021	厚生労働行政推進調査事業費	「児童福祉施設における栄養管理のための研究」	分担者 (研究代表: 村山伸子、新潟県立大学)	400
2020	荒川区補助金	「荒川区における地域産業活用と子どもの貧困対策の融合」	代表者	1,000